

令和5年度第3回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

- (1) 開催日時 令和5年（2023年）7月26日（水） 午後2時00分～同4時00分
- (2) 開催場所 宝塚市役所 4階 3-3会議室
- (3) 出席者
 - ・景観審議会デザイン協議部会委員
徳尾野部会長、岩井委員、大平委員、高木委員、田中委員、山根委員、廣田委員
 - ・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）
濱田部長、福田室長、谷口課長、下山係長、武田職員、白川職員
 - ・事業者
議事① 事業者 宝塚市
請負者 川重・新明和・青木あすなろ・高松建設特定建設工事共同企業体
- (4) 議 事
議事① 宝塚市新ごみ処理場施設等整備事業（第3回）
- (5) 傍聴者
議事① 0名

2. 会議の要旨

事務局： 本日のデザイン協議部会は、委員8名中7名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。

傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいません。

会 長： 本日の署名委員は順番により、1番岩井委員と2番大平委員です。

☆★☆☆ 宝塚市新ごみ処理場施設等整備事業（第3回） ★☆☆☆

会 長： それでは、前回までの協議も踏まえて、新たな資料の提出もいただいていますので、まずはご説明をお願いします。

設計者： 前回の協議でいただいた意見や、事業について検討した結果、管理棟のファサードデザインの変更を行い、また、全体のコンセプトについても再度整理しましたので、ご説明させていただきたいと思います。

まず、外構デザインコンセプトについてご説明します。

本計画は、「市街地に共生する施設—ごみ処理場を感じさせない施設」を大コンセプト、「周辺施設、緑化環境との調和」、「市民に親しまれる施設」、「ごみ処理施設を感じさせない素材選定」を中コンセプトとし、建物デザイン等の工夫により市民に嫌悪されない親しみある施設を目指しています。

次に、具体的な計画についてご説明します。

1点目は、今回建築する3棟の建物について、横連窓、塗装による水平ライン、屋上緑化による水平強調デザインとすることで、建物高さの印象を抑え、各棟のつながりや一体感をもたせ、周囲と馴染む印象となるよう計画します。

2点目は、外壁色を周辺建物と合わせ、ベージュ色を基調とすることで、周囲に馴染むよう配慮します。また、ごみ処理施設特有の高さのイメージを抑えるため、低層部の色彩のトーンを落として水平ラインのピッチを細かく入れることで重厚感を出し、上部の存在感をあまり感じさせないデザインとします。

3点目は、東側道路面に高木や四季折々の花等を植えることで、良好な緑化景観の形成を行い、施設の存在感を感じさせないよう配慮します。

4点目は、管理棟の1階部分を前面ガラスにすることで、中からも外の雰囲気を感じられるようなデザインとします。また、管理棟の前面広場に四季折々の植栽を設けることで、ごみ処理施設と感じさせない市民に親しまれる施設とします。ただし、管理棟以外のエリアはフェンスを設け立ち入りを制限します。

なお、管理棟については、内部プランの見直しに伴い外観を変更していますが、統一感のあるデザインとなるよう配慮しています。

5点目は、管理棟の前面広場の舗装は、外壁に馴染むベージュ色系のインターロッキングを採用し、市民に親しまれる優しく温かみのあるデザインとします。また、流路工の玉石を部分的に曲線状に敷設し、武庫川の水の流れや宝塚らしさを表現した計画とします。

6点目は、当該施設が長きにわたり使用される重要施設であることから、施設の安定感を表現したデザインとします。具体的には、サッシ高さや外壁の割りを同等のサイズ感とすることで規則性や調和性を持たせます。これは水平ラインのピッチ等を複数案検討した結果、最もコンセプトに合うデザインを採用したものです。

7点目は、武庫川対岸からの景観に配慮し、武庫川に面した各棟の軸線を揃えることで、一体的に整った印象となるように配置します。東側は敷地近くか

らの近景に配慮した計画であるのに対し、西側は武庫川対岸の市役所等からの遠景に配慮して計画しており、配置計画と水平ラインによって一体感のあるデザインとします。

8点目は、見学者通路部分に日射遮蔽機能を兼ねた木調ルーバーを設置することにより、視線をルーバー部分へ誘導し、ごみ処理施設特有の上層部の印象を弱めるとともに、水平強調の外壁デザインのアクセントとします。また、エネルギー回収推進施設棟とマテリアルリサイクル推進施設棟の一体的なつながりを表現します。

9点目は、西側河川敷沿いに四季折々の植栽を行うことで、周辺の緑との一体感を持たせる計画とします。また、災害時の廃棄物置場を兼ねる憩いの広場についても、可能な限り植栽することで、市民に親しまれるような計画とします。

続きまして、外構植栽コンセプトについてご説明します。

「周辺の緑と調和した緑化」、「市民に親しまれる緑化」、「ごみ処理施設を覆う緑化」をコンセプトとし、周囲の緑とつながる良好な景観を形成することで、市民に嫌悪されない親しみのある施設を目指しています。

次に、具体的な計画についてご説明します。

1点目は、東側道路及び西側河川敷沿いの豊かな植栽による良好な景観を、本敷地内においても連続して繋がるように、建物周辺及び屋上に四季を通して楽しめる緑化を行います。

2点目は、建物のボリュームを感じさせないよう、東側道路沿いに中高木を多数植栽します。目隠しとなる高木については、公共植栽で一般的に使用されており害虫にも強い常緑樹であるクスノキやシラカシを計画しています。そこへ、赤やピンク色のサルスベリ、紅葉色のイロハモミジ、ピンク色のウメノキ、オレンジ色のキンカン等、色味のある植栽を加えることで、市民に親しまれる植栽計画とします。

3点目は、西側河川敷沿いについて、周辺との連続した植樹環境となるよう、施設に支障のない範囲で高木を植栽し対岸からの景観に配慮します。なお、武庫川沿いにおいて昔から馴染みがあり、市民からも多く要望をいただいたサクラをメインとし、対岸からもきれいにサクラが見えるよう配置します。また、幹が細く繊細さのあるシマトネリコやソヨゴを合わせることで、幹の太い堂々としたサクラの良さがより引き立つと考えています。

4点目は、市民が訪れる管理棟の前面広場について、シンボルツリーとして宝塚市の市木であるヤマボウシを計画し、併せてアジサイ、ドウダンツツジ、クチナシ、カンツバキを植樹することで四季折々の花が咲くような植栽計画と

し、市民に親しまれる花と緑の広場を演出します。

5点目は、河川敷側について、市民が利用できる憩いの広場と緑化された遊歩道を設けます。この広場は災害時の廃棄物置場を兼ねているため、機能に影響のない範囲でサクラなど河川敷と同種の植栽をします。

6点目は、各棟に屋上緑化を行うことで各建物の連続性をもたせます。また、東側については、手前は高木で目隠しをし、建物自体にも見えるところへ屋上緑化をすることで、全体的に緑が建物を覆うという印象を与え、ごみ処理施設としての存在感が弱まるよう計画しています。

会 長： では、委員よりご意見やご質問があればお願いします。

委 員： 今回の計画は、特に管理棟のファサード面のデザインが変更になり、個人的には、全体の一体感や連続性が感じられるデザインになったと思います。

少し気になったのは、全体的なコンセプトとしても「水平ラインを強調する」とのことでしたが、図面を拝見しますと、管理棟の北面はあまり水平ラインが感じられません。もう少し水平ラインを意識して、横連窓に見えるような設計とする方が良いと思います。

設計者： 管理棟については、窓やシャッター、柱などにより、なかなかラインを揃えることが難しいのですが、可能な限り水平ラインを合わせて、連続したデザインとなるよう検討します。

委 員： ご検討宜しくお願い致します。もし、柱型は壁でなければならないということでしたら、壁材と同じ色味になっている柱型部分の色味を変更するなどして、横連窓に見えるよう工夫しても良いかと思えます。

委 員： マテリアルリサイクル推進施設棟の低層部の窓について、高さが揃っていないように見受けられます。水平性を強調されるのであれば、全体的に徹底して横連窓とし、高さを揃えたデザインとすることは出来ませんか。

設計者： マテリアルリサイクル推進施設棟西側の2階部分は、平面は事務所エリアと機械室エリアに分かれています。

それぞれのエリアの天井高の違いによって、窓の高さも異なっています。機械の関係上、配置の変更は難しいですが、法的な関係も含め再度確認してみます。

委員： 内部との関係で、どうしても難しいということは当然あると思いますが、全体のコンセプトに関わることなので、可能な限り水平性が強調されるような窓のデザインを検討いただければと思います。

委員： 今回変更された立面図でのマンセル値を教えてください。

設計者： 着色立面図が変更後の立面で作成できておらず、申し訳ありません。
管理棟東側立面が前回から変わっています。ベース色については、前は2.5Y8.5/2でエネルギー回収推進施設の上層部と同色でしたが、今回、水平強調のデザインに変更したため、管理棟南面と同色の2.5Y/8/2に変更します。外壁のラインについても、南面と同色の1.5Y/6/2とします。

委員： 前回見せていただいた外壁材の見本は表面には少しテクスチャがあったように記憶していますが、どのような仕上げでしたか。

設計者： 表面はゆず肌仕上げです。

委員： 前回の平面図にあった管理棟1階部分の展示ゾーンが、今回はホールと表記されているのですが、展示ゾーンはなくなってしまったのでしょうか。

設計者： 表記はないですが、展示ゾーンは計画しています。主に宝塚市内の小学生の社会科見学等のための啓発用の展示を予定しています。詳細は未定ですが、1階に設置するものについては来館者に自由にご覧いただけます。

委員： 憩いの広場について、使い方のイメージができません。これだけ緑もあり花もありますので、天気の良い日などに憩えるのかなと考えていますが、具体的なイメージがあまり浮かびません。

また、動線について、4方向からではなく、東面と南面からのみアプローチがあるのでしょうか。遊歩道については、東から西へ抜けるためだけのものなのでしょうか。

設計者： 憩いの広場の使い方としては、名前のおり「憩い」としてご利用いただければと考えています。クリーンセンターの敷地内ではありますが、広場の利用は、クリーンセンターの利用者に限定しませんので、スポーツセンターで運動される方や河川敷を散歩される方等、適宜休憩等で利用していただければと思います。

駐車場は時間貸駐車場として整備する計画ですので、来られて少し休憩される方もいらっしゃるかもしれません。

動線については、前回から変更はなく、遊歩道から憩いの広場への動線がメインになることを想定しています。憩いの広場への出入口については、遊歩道のある北側とクリーンセンターのある南側に設けており、東側については駐車場とのアクセスを考えて出入口を設けるか現在検討中です。西側河川敷については、パッカー車が通るため出入口は設けない計画です。

遊歩道については、スポーツセンターの敷地ではありますが、今回の工事に併せて既存を一部リニューアルします。現在は、東側道路から西側河川敷へ抜ける道で、今回計画に伴い、憩いの広場へのアプローチにもなります。

会 長： 憩いの広場は、24 時間空いていますか。

設計者： 遊歩道は、24 時間通れる状態ですが、憩いの広場については、時間制限し、深夜帯には閉める予定です。

委 員： 街灯は設置しますか。

設計者： 遊歩道と憩いの広場共に、街灯設置予定です。

委 員： 屋上緑化について、外観上は綺麗だなと感じますが、コストがかかると聞きました。景観の観点とは少し違うかもしれませんが、市民としてはコスト面も気になります。維持費などを検討した上で、計画されているのでしょうか。

また、新築して綺麗な建物に対して、建物を傷めるものを設置するということに対して、複雑な思いもあります。

設計者： 景観上の規制とは別に、敷地内に一定の緑化をするよう定められています。地上の緑化で基準を満たすことが出来れば一番良いのですが、敷地が狭いこともあり、コストや維持管理面も含めて、総合的に検討した結果、屋上緑化を併用することで緑化率を確保しています。

委 員： 植栽、外構計画について、いくつか申し上げたいと思います。

1 点目は、「周辺の緑と調和した緑化」のコンセプトについて、今回計画において、景観上で最も重要な点は、河川沿いの高木植栽の連続性です。

多目的グラウンドの西側河川敷沿いには、非常に豊かなクスノキやシラカシ等がありますので、憩いの広場及びエネルギー回収推進施設棟の西側の植栽に

については、出来る限り常緑の高木であるクスノキ等を計画いただき、対岸から見た際に、連続した緑のボリュームが見えるようにしていただきたいと思いません。

2点目は、「市民に親しまれる緑化」のコンセプトについてです。

広場の計画において、市民がどのように利用するかを具体的に想定し、それを基にして計画いただくべきかと思いません。

まず、広場の波状の園路について、敷地全体としての統一感がありますが、基本的には、この形状の園路に沿って人は歩きません。憩いの広場においては、主要動線を基に園路を設計される方が良いと思いません。

また、広場の出入口が芝生だと、雨が降った翌日などは、非常に利用しづらいです。人が出入りするエントランスや滞留する場所等に関しては、芝生ではなくインターロッキングや自然色アスファルト舗装とすることが望ましいと思いません。

憩いの広場のベンチについて、緑陰が無いため、人が滞留出来ません。管理棟の前面広場についても、滞留スペースはありますが、緑陰が期待できない樹種での計画となっているので、ケヤキ等の逆円錐形で、木陰が出来やすい植栽への変更をご検討ください。

河川沿いのサクラについては、今の本数は必要ないと思いません。少し間引いて内側にクスノキなどの緑量が期待できる樹木を計画することで、対岸からの常緑樹の連続性が担保出来ると思いません。

遊歩道については、現状は両側にクスノキ等を計画されていますが、鬱蒼としてしまいそうですので、人を広場に誘導できるような花木や中木、シマトネリコやソヨゴ等の高木を中心に再度検討していただける方がと良いかと思いません。

また、駐車場南側のカイヅカイブキの並木についても、非常に暗いイメージとなってしまいますので、花木等に変更し、人がにぎやかに歩くようなイメージで計画いただきたいです。

滞留スペースについては、基本的には河川沿いの車道へは侵入してほしくないわけですので、例えば、北側に緑陰を設けた滞留スペースをつくると、憩いの広場として人々に使いやすいかたちになると思いません。

3点目は、「ゴミ処理施設を覆う緑化」というコンセプトについてです。

現在、東側道路沿いにクスノキ等でかなり厚く植栽帯が設けられており、遮蔽には非常に有効かと思いません。しかし、間隔が少し密なので、本数を減らし、その間に市民が四季を感じられるような中木の花木などを植えていただくと豊かな景観になると思いません。

道路敷際はヒイラギモクセイの生垣となっていますが、人間の感性は複雑で、

植栽であっても、同じ樹種が並んでいると長大な壁面のように感じてしまいます。低木の背後に中木を配置したり、ウバメガシやシラカシ等多様な樹種を混植したりするなどして変化をつけると、長大な壁面とはならず、豊かな景観ができますので、工夫していただければと思います。

エネルギー回収施設棟の西側河川沿いについては、サトザクラ等だけではなく、クスノキやシラカシなどの常緑樹の高木を数本入れることで、対岸から見た際の連続性を担保できると思いますので、ご検討をお願いします。

会 長： 東側の緑化については、「遮蔽する」「見せたくない」というような緑化になっていますので、もう少し間引いて、建物の壁面が背景になって、緑が映えるような関係になると非常に良いと思います。

事業者： 憩いの広場のご提案についてですが、こちらは災害時の廃棄物置場となっており、これ以上内側に高木を植えると、必要な平地面積が確保出来ないという状態です。

滞留空間は芝生でなく舗装にした方が良いというご意見についてですが、現在計画している芝生部分を含めた緑地の面積が、工場立地法において必要とされる緑地面積率に対して非常に厳しい計画となっています。

緑地面積を確保しなければごみ処理施設を建てられないのですが、現在、運営動線等も考慮して目一杯の緑地を確保している状態です。これ以上芝生部分を減らすと、緑地率が確保できません。

西側河川敷沿いのサクラについては、サクラを間引いてクスノキ等の常緑樹を配置するという方法を検討したいと思います。

東側道路沿いの植栽については、中高木を間引くと、宝塚市景観計画における緑視率が確保できなくなる可能性があります。

委 員： 東側道路沿いの植栽については、緑視率の問題があるのであれば、中高木を間引くということではなく、樹種の変更を行い、混植することは出来ないでしょうか。

設計者： それは可能です。本数はそのまま樹種を変えるということですね。

委 員： 憩いの広場の計画について変更が難しい状況なのは非常に残念です。例えば、広場の中央を丸状に芝生にして、四隅だけでも舗装するという方法もあります。

必ずしも四角く植栽帯を囲む必要はないので、必要な場所に植栽をしていただき、エントランス付近や滞留スペース等には、効果的に舗装を設けてくださ

い。

委員： 遊歩道の舗装はアスファルトですか。

設計者： アスファルト舗装です。

委員： 遊歩道はクリーンセンターの敷地ではないということですが、遊歩道と憩いの広場を繋げる大事な動線ですので、単純なアスファルトより、少し工夫のある舗装が入っている方が景観上望ましいと思います。

憩いの広場については、市民のための広場と一体的なデザインや使い方を想定しておくことが大切だと思います。

広場の園路については、最初のご説明で「武庫川の流れを表現している」とのことでしたが、実際にそのような見え方をするのは恐らく鳥瞰図のみで、ヒューマンスケールではそのようには見えないと思います。

この場所が「見られる」場所というよりは、むしろ武庫川や山を「見る」場所になると考えていただければと思います。

先ほど、中央に芝生を置くという意見がありましたが、計画されている園路のうち中の一本を残して、両サイドの入口付近に溜まりを設けるのも良いかと思えます。また、もし園路を3本設けるなら、遊歩道側には入口を3つ設けてしっかりと人が流れるようにしたり、入口を3つにするのが困難であれば、入口は1つにして入ったところに溜まりがあり、道を抜けて動線は繋がっているというパターンもあるかと思えます。

会長： 管理棟の前面広場について、日常的に誰でも入れますか。また、開放時間については限定されるのでしょうか。

設計者： 開放時間については、スポーツセンターと合わせることを検討しています。具体的には、午前8時から午後9時まで開放し、午後10時頃には全てのゲートを閉じようかと考えています。時間内であれば、市民の方は誰でも入れます。

委員： 今回のご説明において、安定感を表現するために規則性のあるデザインにするという考え方や、東側は近景を、西側は遠景を意識した考え方は分かりやすく、よく理解できました。さらに、周辺の緑と水と調和した玉砂利や園路の関係なども説得力がある考え方になってくると思えますので、整理しておいていただけると良いかと思いました。

また、せっかくこのようなコンセプトがあるので、竣工後だけでなく、工事

の途中段階においても、是非このコンセプトに沿って進めていただけると、非常に良いと思います。

会 長： 工期が非常に長く、10年程度ありますので、工事中であっても景観への配慮をお願いしたいということですね。

なかなか難しいかもしれませんが、現段階で具体的に何か計画はありますか。

設計者： 仮囲いについては、真っ白な万能塀ではなく、多少なりとも着色のある工事フェンスにする等して配慮したいと考えています。

工事中であっても出来る限り景観に配慮したいとは思っていますが、大変狭い敷地ということもあり、難しい部分が多々あります。引き続き検討しながら10年間やっていきたいと思います。

委 員： 昔からの武庫川の特徴的景観として、沿岸の松の木が挙げられます。

それを継承したいということで、武庫川沿岸に建築物が新築される際には松を植えていただくようお願いしていたと思います。

今回の植栽計画に松の木はあまり合わない気もしますが、どうお考えですか。

事業者： 昔、スポーツセンターにポプラの並木があった時期もありましたが今はなく、また、一つ前のクリーンセンターの時には樹木自体があまりありませんでした。

現行のクリーンセンターには、クスノキやケヤキを中心に多くの樹木が植えられましたが、その前後に松の木はないような気がします。

事務局： 市役所前の宝塚新大橋より上流の河川沿いに、既存の松が散見される程度かと思います。

事業者： 左岸側は若干あったかもしれませんが、ほぼ松は無く桜があります。

右岸側は西宮市に入った辺りから昔の松が残っている感じです。

委 員： 近隣の明治時代の絵ハガキには、あまり松は見られなかったと思います。

今回は武庫川沿いということでクロマツについて意見をするかどうか迷ったのですが、やはり市民グラウンドの植栽からの連続性の方が、景観的な見え方としての統一感があって良いと考え、クスノキ等の意見としました。武庫川沿いの景観軸の形成は市全域に係ることですし、今後見直しが必要な部分もあるのではとも思っていますので、併せて別の機会に議論出来ればと思います。

クロマツは、ボリュームを出すのが非常に難しくなりますので、今回の敷地

については、右岸側から見た際の緑のボリュームが必要となる点を重要視したいと思います。

委員： 現況の対岸からの写真を見ると、ボリュームのある植栽があるので、クロマツの話をするか迷いましたが、やはりこれまでデザイン協議部会で意見してきた経緯もありますので、意見しました。数本でも植えることが出来ないでしょうか。

委員： 憩いの広場側は、緑量の連続性について配慮いただいていますので、もし植えるのであれば、エネルギー回収推進施設棟の西側河川沿いかと思います。対岸からのエントランスという見え方になり、数本をクロマツにする意義があるかと思います。

設計者： 松については、全体的なバランスも考慮して検討します。

委員： マテリアルリサイクル推進施設棟の西側にある計量棟について、メインの建物に比べると小さいですが、景観上のボリューム的には大きい建物かと思います。計量棟は、図面では水平ラインが入っていませんが、間違いありませんか。メインの3施設に合わせたデザインにして、統一感を持たせる方が良いと思いますが、いかがでしょうか。

設計者： 現在の計画では、建物下層部のベース色に合わせたシンプルなデザインとしています。再度、中遠景からの植栽等も含めて見え方を確認し、検討させていただきます。

委員： 水平ラインを入れる方が良いのか、下層部の色に合わせて無地の方が良いのかはお任せしますが、統一感が出るデザインとなるよう検討してください。

会長： 今回で3度目の協議となり、これまでの色々な意見もいくつか反映していただき、当初よりも景観に馴染んできたと感じます。

本日の意見も参考にいただき、事業者の責任の元、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

それでは本日の協議はこれで終了とします。